

601) 寝ボケ話

真夜中にトイレに行った。寝ぼけていたから目が開いてない。気持ちよくオシッコをしたものの、いつもと音が違う。おかしいなと思ってうっすらと目をあけてみると、どうもそこはトイレでない。便器がないのである。な、なんとウォーキングクローゼットの床の上にオシッコをしていた。まだ量が多くなかったので、雑巾を置いてまた寝てしまった。残りのオシッコはちゃんと正規のトイレで無事に済ませることが出来た。良かった！良かった!!。

その話を数人で酒を飲んだときにしたらもっと上がった。そいつの家は風呂場とトイレが隣になっていて、トイレと思って入ったのが脱衣場。たまたまそこにバケツがあつて、それを便器と勘違い。思い切り大の方をしたらしい。ウオシュレットと紙がないので気がついたが、取りあえずティッシュがあつたので、これで後始末はつつがなく終わった。まあ明日でいいやと思って、また寝てしまったが、早起きしてこっそりと処分すればよかったのに、一晚寝たら、そのことをスッカリ忘れてしまった。カミサンに見つかって大目玉。一日飯を食わせてもらえなかったとか。クワバラ！クワバラ！である。